

[様式14]

(対象事業：ミュージアムを核とした地域文化資源の整備・活用に係わる事業)

**事業名：日根荘野外博物館  
活用プロジェクト**

事業者名：日根荘野外博物館活用プロジェクト  
実行委員会

連携事業館名：泉佐野市立歴史館いずみさの

住所：大阪府泉佐野市市場東1丁目295-1

TEL：072-469-7140

FAX：072-469-7141

HPアドレス：

<http://www.city.izumisano.osaka.jp/ka/rekishih.html>



**①施設概要**

平成8年5月18日に開館。泉の森ホール・生涯学習センター・中央図書館との4施設からなる、泉佐野市総合文化センターの一角を占める。泉佐野市及び周辺地域の歴史・文化についての情報発信を行っている。延床面積は、1,550平方メートル。

**②事業の意図目的**

泉佐野市内には、国史跡荘園遺跡「日根荘」があり、豊かな田園景観が広がっている。ここはまさに中世荘園の野外博物館ともいえる空間である。この日根荘遺跡を市民に広く普及し、遺跡の活用をはかり、野外博物館の拠点形成を目的とする。

**③事業概要**

- ①日根荘遺跡に該当する大木地区において、七箇所の史跡指定地を歩いて回る遺跡ラリー。
- ②日根荘遺跡に該当する日根野地区において、歴史館からバスで移動して史跡指定地を見学する、史跡見学会。
- ③日根荘遺跡の意義や今後の活用について、市民や行政の理解を深めるための講演会。

**④事業の製作物及び報告書等**

該当するものを選んでご記入ください。

事業の製作物    テキスト    ワークシート    その他（ガイドマップ）

作成した報告書等

ビデオ（

冊子（

その他（

)  
)  
)

**⑤参加者状況**

参加者人数    延べ    110    人  
内 訳    ①遺跡ラリー    50名（大人40名・こども10名）。②史跡見学会    25名（大人25名）。    ③講演会    35名（大人35名）。

## (1) 事業の実施状況について

### ①遺跡ラリーについて

実施日は平成19年12月2日(日)。大木小学校の地域交流棟をスタートにして、大木地区内7箇所の地点にスタンプを置き、それぞれスタンプを押して戻ってくるというイベント。チラシの裏がそのまま遺跡ラリーのスタンプの台紙になっている。当日の参加は50名(大人40名・こども10名)。開始時間の午前10時に受付する参加者が多く、午後からの参加者は少なかった。



講演会の様子

### ②史跡見学会について

実施日は平成19年12月9日(日)。午前中に行った。歴史館いずみさのをバスで出発し、日根野地区の史跡を巡った。最初の訪問地は日根神社・慈眼院。ここをスタートにして、途中、八王子跡・丹生大明神跡などに立ち寄り、熊取町との境にあるため池(尼津池・八重治池)を回った。最後に十二谷池に立ち寄り、ここから歴史館いずみさのへバスで帰館した。参加者25名。

### ③講演会について

実施日は、平成19年12月9日(日)。午後1時30分より行った。テーマは「今、よみがえる日根荘」。講師及び演題は、帝塚山学院大学の鶴崎裕雄氏(『政基公旅引付』にみる文芸と芸能)と兵庫県立大学の林まゆみ氏(「中世日根荘における人と景観の関わり」)。時間はいずれも約1時間程度であった。講演後、泉佐野の歴史と今を知る会の井田寿邦氏を司会として、質疑応答・意見交換を約1時間30分行った。参加者35名。

## (2) 地域との連携について

遺跡ラリーにおいては、大木地区交流棟(大木小学校内)をスタート・ゴールとすることによって、また史跡見学会では、日根野地区を対象とすることによって、それぞれ地域との協力関係を築くことができた。

### (3) 成果物について

野外博物館「日根荘遺跡」ガイドマップ(別添)を作成した。

### (4) 参加者の反応

日頃みることの少なかった日根荘遺跡の指定地を体系的に理解することができ、またそれぞれにまつわる情報を得ることができて、概ね好評であった。

### (5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

日頃みることの少なかった日根荘遺跡の指定地を体系的に理解することができ、またそれぞれにまつわる情報を参加者に広く周知することができて、今後の野外博物館への展望を開くことができた。

(6) 新聞記事等

新聞やテレビ、関連誌等に取り上げられることは無かった。